

## 対話をふり返って

千葉県立院内小学校 渡邊美穂

## 1 はじめに

私は、ことばの教室で初めてどもる子を担当した時のことを思い出した。どもっていることについて、全く話すことができずひたすら遊んでいた。子どもと仲良くなるために必要なことだと思っていたが、今思えば子どものご機嫌を損ねないようにしていたと思う。「仲良くなれば、きっとどもることを相談してくれる」と子ども任せになっていた。結果的に、子どもは「遊ぶところ」とことばの教室のことを思ってしまい「話す」「対話する」ということが益々難しくなってしまった。

今、子どもとの「対話」を具体的にどうすればいいのか考えてみた。実際の様子をふり返り、「対話」について考えてみようと思う。

## 2 子どもとの対話

## ① どもることを悩んでいる賢一君

○ 賢一君は、幼児期から話しにくさを感じ友達とのトラブルを抱えていた。「まねされる」「どもることを指摘された」など、ことばの教室では友達の悪口をいつも言っていた。

<1年生の賢一君との対話>

「お母さんから、授業中にトイレに行ったり、保健室に行ったりが多くて心配と聞いたよ。どうしたの?」「なんか、すぐトイレに行きたくなっちゃうだよ。」「どんな時に?」「字を書くのが嫌なんだよ。もっと嫌なのは音読とかさ、発表とかなんどけどね。」「だから、そういう時にトイレとか、保健室に行きたくなっちゃうんだね。」「でも、黙って行ったりしてないよね?」「うん。そーなんだよ。あ、思い出した!」「何?」「先生にトイレ行っていいって言おうとしたら、すぐ言えなくてト・ト・ト……ってどもっていたらね、誰かがトって言ってくれたんだよ。そしたら、トイレに行ってもいいですかって言えたんだよ!」「へー。誰が言ってくれたの?」「わかんない。」「それで、トイレに行けたんだね。」「うん。でも、誰だったのかな?」「いつもクラスの友達とケンカしてるでしょ。賢一君がどもることをバカにしてるって怒ってたよね。」「うん。でも本当はいい子もいると思う。」「賢一君がどもることは、クラスみんなは知っているよね?どもった時に賢一君はどうしてもらいたいの?」「別に、何もしなくてもいいけど、まあ慣れてほしいかな。」「賢一君がどもって話すことに慣れてもらうためには、どうしたらいいかな?」「どもることを伝えようかな」「どうやって?」「手紙とか書いて読もうかな。」「え?書くことも発表することも嫌なんだよね?」「んーそうだけど。でも、書くよ。」「書いて読んでもいいけど、そうしても理解してくれない子がいるかもしれないよ。」「そういう人は、無視するよ。」「じゃあ、そのことをクラスの担任の先生に相談しなきゃね。自分で相談できる?」「わかった。じゃあ、明日试试看ね。」

○ 実際には、文字を書くことが苦手だったためすぐには手紙を書くことができなかったのだが、気持ちを伝える意欲はずっと賢一君はもっていた。手紙を書くまでの間は、どもりカルタで自分の気持ちを表現したり、グループ学習で仲間と出会い話し合いをしたりした。そして、3年生でクラス替えがあるのでその前にこのクラスみんなに伝えておきたいと賢一君は、手紙を書いて読んだ。クラスの友達は、敵だと思っていたような言動から、「仲間」という気持ちに変化したようだった。

② どもることに悩んでいないようにみえた香里さん

- 私が担当になったのは、4年生の時です。それまでの引継ぎでは「特に悩んでいない」とのことだった。実際に明るく、活発な香里さんはあまりどもっている様子がなく悩んでいるようには見えなかった。

<5年生の香里さんとの対話>

「吃音の波の学習をしたよね。自分の波もかいてみない?」「これまでのこと?」「これまでのどもりのことやその時の気持ちをグラフにしてみない?」「まーこれまでというよりは、今後の波とかかいてみようかな。」「いいね。いろいろ想像してみよう。」(グラフを見ながら)「吃音症状の様子と、気持ちは同じじゃないね。」「うん。たぶんね、中学校や高校など新しい環境になるとどもりがひどくなると思う。」「気持ちは、一緒に落ちこむわけではないの?」「どもっているから落ちこむじゃない感じ……。落ちこんでいるけどどもって悩むだけじゃないし。」「これまで、あんまりどもることで悩んだり困ったりしなかったよね。これからは、悩むことがあると想像するの?」「すごくどもったりしたこともあるけど、友達は何も言わなかったからなんとなく悩まずにきた感じ。」「でも、来年6年生はすごくどもるって予想だけ?」「いろいろ役があって話すこととか、ありそうだからどもりそうって思う。」「クラス替えがないからメンバーは、同じだよな。」「そう、だからクラスでは心配ないけど。」「じゃあ、どもっても心配ないってことを表しているんだね。」

- その後、5年生3月に遠くに引っ越すことが急に決まって香里さんは、かなり落ちこんでいた。でも、すぐに切り替えて前向きに話していた。

「引っ越すのは、嫌だけど私が好きなバドミントン部がある中学校に行けるって言ってたから、いかもって思った。」「この辺では、バドミントン部がある中学校がないからね。じゃあ、よかったの?」「まあ、いいかって感じ。」「そういえば今年の学習発表会が最後になるんだね。何を発表する?この間かいた吃音の波予想でもいいよ。」「んー浮かばないな。」「でも、せっかくだから香里さんのメッセージみたいなものもいいと思うけど。作文とか、詩とかどう?」「作文、詩……。替え歌なら詩でもいいけど。」

「いいね。カラオケ好きだもんね。作ったらで歌ってよ!」「えーやだー。」

- 替え歌をしたい曲を持ってことばの教室に通級してきた。

「コブクロの“風見鳥”って知ってる?」「ちょっと聴かせて。」「なるほど、いい曲だね。」「どうしてこれにしたの?」「“弱い自分に勝てるなら誰に負けたっていいさ”の歌詞が今の自分を捨てずに、見失わないように、大きな壁が立ちほだかっても、ぶちこわせるように、自分に強く生きていきたいから。」「すごいね、そんなこと考えていたんだね。」「お兄ちゃんが教えてくれた曲なんだけど、好きだからカラオケでも歌ってるんだ。」

「おー!いいね!じゃあ、替え歌を作っていこう。」

- 歌詞が出来上がってからことばの教室の一人ずつの発表の仕方について話し合った。

「この歌詞に込めた思いは?」「初めてことばの教室に来た時は、弱くて自信がなくて人と話すことが苦手だった。でも、今の私は違う。今の私は、強く自信に満ちあふれ、人と話すことが好きな自分になった。もしも、ことばの教室に通っていなかったら、昔の自分と今の自分はほとんど変わってなかったかもしれない。昔の自分と今の自分を思い浮かべながらかいた。自分らしいことばがたくさんつまっている。それに、これは、私からいろいろな人に感謝と希望を伝える歌になった。“弱い自分に勝てるなら誰に負けたっていいさ”のことばを大切に生きていきたい。」「いいね。これまで、どもることに困ることもそれほど悩むこともない香里さんだと思っていたけど、こんなにいっぱい思いをためていたんだね。発表会で、歌ってほしいな。」「やってみる。」

## 風見鳥 ～自分らしい未来へ～

何気なく 話した言葉が 心の中で ひびくよ  
あの日 はじまったどもりは不思議で どんな日々も過ごしてきた  
てっぺんが見えないほど高い フェンスの向こう側へと  
夢だけ先に放り投げてよじ登り 祈りの陽を見つめていた  
いつの日も 未来を探す 風見鶏のように  
真っすぐ どもりと立ち向かい 生きてゆきたい  
逃げださないように 流されないように  
心に 深く深く 突き立てた 風見鶏

たくさんの方がくれた勇気 心の中で光ってる  
あたたかい声が 教室にひびきわたる 何度力を かりただらう  
心細い気持ちをかくしてた 笑う 楽しく過ごす  
刻む足跡もやがて消えゆく そこに咲かせてゆこう ほほえみの花  
いつの日か 心も笑ってられるように いくえの願いが  
空の果てに弧を描くよ たたずむ風の跡 たどればどこかで  
きつときつと待ってる 希望 cause I believe my dream

自分見失ってまで強くなって 何を守れるのだろう  
一番そばにあった笑顔が咲く場所 探しているのに  
いつの日か いつの日も もう一度あの街へ 友の待つ場所まで  
真っすぐ 自分と立ち向かい 生きてゆきたい  
弱い自分に勝てるなら 誰に負けたって良いさ  
くちびるかみしめれば きこえるよ 君の声  
いつの日も 風見鶏

○人前で歌を歌うことなど、これまでしたことがなかったが歌詞が完成したことで、やってみようと思えたようである。学習発表会では、小さな1年生がしみじみ「風見鳥いいね。」とつぶやいたことが印象的だった。それくらい、参加者全員が感動した場面となった。その後、引っ越し先で友達と仲良く過ごしていることの知らせが届いた。

### 3 おわりに

改めて「対話」について振り返ってみたが、私が何かすごい会話術があったわけではなく、子どもが話しながら気持ちや思いをまとめたり、変化したりする力を発揮したからである。担当者としてコツがあるとしたら、対等で夢中に対話をする事だと思う。